

反対派住民と初勉強会

高速道建設で 市と道路公社 手厳しい追及の声も

名古屋市の高速道路建設計画に
対し、地味ながら根の深い反対運
動を続けている「静かな環境を守
り高速道路に反対する会」(会友
・早川文夫名城大教授、百二十
人)が十五日、名古屋西町三丁目

の市西山下水処理場研修所で、
名古屋高速道路公社の姿勢担当者
と初の「勉強会」を開いた。市側
がこれまでに実施した環境影響調
査に対し、同会独自で行っている
公害測定を突き合わせる形で意見
の交換があったが、「持込所調
査」に不信感を抱く住民からは時
折、手厳しい追及の声も飛び出
した。

「反対する会」は五十年秋、同
区林道町の真ん中を突き抜ける高
速道路の路線計画に反発して作り

られた。「静かな住宅地を削がす」と
騒音から守れ」との呼びかけで、
地帯の大半が参加、毎週、風
船を飛ばして風の強さを測定した
り、会報を出すなどの活動を経て
て来た。

一方、市側は高速道の環境に与
える影響をこの「勉強会」で
して、住民に対し説明会を開いて
いるが、住民側はこれに満足は
ず、市に呼びよせたいとの目的で
会を開いた。

会場には行政側から市計画局の
伊藤千寿事務をはじめ、名古屋高
速道路公社職員ら六人が、「反対
する会」は早川会長ら約六十人が
出席した。その半数近くを主婦が
占め、家族ぐるみの運動ぶりを見
つけた。

会はず、市側が五十年度に
同区調査で行った風向、風速、温
度の気象調査と騒音騒動物の測定
結果、昨春の三百回で実施した現
地実験などの内容を説明。このあ
り住民側が質問を続けた。

伊藤事務らは、「市のデータは
解析のための資料であり、純粋に
また出している」と述べ、環境
影響調査が済んでいることを強
調した。住民側は「三百回、
百五十回にわたって行った騒音風
船調査の実態をバツクに、「騒音
可視化は進んでいるが、地帯の
空気中のガスは放射能を測定する
る。市はもう一回、データを調べ
結論を出せ」としつづめる。一方
しかし、全体は「高速道路建設
は公害環境対策が先である」と

を伴うに、最終的には市側の提
案があるのはなぜか」という元
素じりの疑問を出す出席者もあ
り、市側はなかなか回答で双方が
意見交換を続けた。

最後に早川会長らは市の持
つ細かなデータをすべて公表する
よう要請したが、市側は「検討し
てみる」と答えただけで、積極的
な姿勢は示さなかった。

出席した主婦の一人(三〇歳)「難
しい用語を使う市の説明はさぐり
からだが、お互いの意見を話し
合えただけでも意味がある」と話
しており、「反対する会」は、今後
もこの種の会合を開くつもり市に働
きかけるとしていった。

昭和 57 年 11 月 16 日付

を開いた。市側は担当者も随分代わったが、市の調査の正しさを主張するばかりで、高姿勢化が目立った。

昭和57年度の主な活動記録

57・1月 恒例の元旦風船揚げ実施。

3月 鏡ヶ池線反対期成同盟会長と懇談。

植園、扇町住民への広報配布開始。

4月 公害道路現地見学会、バス旅行。

第十二回総会。

7月 環境庁長官、建設大臣、知事などへ陳情。

8月 全員参加の夏休み風船揚げ実施。

公社へ陳情。

9月 市へ陳情。

11月 環境影響調査で会・市共同の勉強会。

昭和58年度の活動

新年早々、知事選立候補の鈴木、堀場両氏に公開質問状提出した。回答は予想とおりの内容で、鈴木氏は高速道路建設を推進、堀場氏は会の主張に賛成であった。

四月二十四日、第十三回総会。筒井県議、本谷市議の来

賓出席を得て、新役員（運営委員）十二人を承認、運動方針に大きな変化もないまま健闘を誓い合った。

夏には本谷市議、渡辺市議と懇談、市への陳情、全員参加の風船揚げなどを行った。高速道路の見直しを求める会設立準備会で早川会長が招かれてお話をされました。

秋には知事代理の県土木部長に陳情、「環境アセスメント制度の現状と問題点シンポジウム」にも参加した。

この年、高速道路1号線は東へ東へ、2号線は北へ北へと工事が進む。

昭和58年度の主な活動記録

（活動記事と重複するので省略）

昭和59年度の活動

元旦の風船揚げで始まった。三月には運営問題、組織に関して、などでアンケート実施。五月十三日に第十四回総会。高速道路の赤字問題がクローズアップされてきたため、その道の専門家・平井名城大教授を招いて学習会を併催した。平井先生は「現在、一日一千万円の赤字が出ている。

建設費が日増しに高くなり、借入金、利子支払い、管理費

も増えるばかりなのに、通行車数は当局の見積もりよりぐっと少ない。当局は全線開通すれば採算はとれるというが、あてにならない」と、資料を示して解説された。

夏には町内の会未加入者へPR版を出して呼びかけを行い、市への陳情、全員風船揚げなどをした。また、渡辺市議との懇談には自治会役員も同行、席上、渡辺氏は「藤巻ルートはスジが通らない。市計画局に対して日ごろ計画変更を強くいっている」と心強い言葉で応待された。

秋、本谷市議と懇談。ついで反対看板を、藤巻ルート撤回の主旨を打ち出す形に変える作業をした。暮れには、会の役員経験者との懇談会を開いた。

昭和59年度の主な活動記録

59・3月 運営・組織でアンケート。

5月 第十四回総会。平井名城大教授を招き、高速道路の赤字問題学習会を併催。

7月 市へ陳情。

8月 渡辺市議と藤巻町自治会役員ともども懇談。

9月 本谷市議と懇談。看板タイトルを変える。

12月 役員経験者との懇談。

昭和60年度の活動

前年度から軌道に乗り始めた自治会との協調路線（本来、会は自治会と連帯で出発したのだが…）に基づき、新年早々、自治会三役と会役員との懇談会が持たれた。二月には恒例？ともなった会運営についてアンケート。その結果は①藤巻ルートはいや ②自治会とは協調 ③会費の五百円は高い（30%）④会報は読んでいる（70%）⑤運動はさらに進めるべきーなどの内容であった。

四月は本山市長が引退しての市長選。候補者西尾さんに質問状を出したが、同氏は本山さんの後継とは名ばかりで、高速道路の建設促進を公約の一つにする人。各党相乗り（共産除く）で染々当選し、高速道路に限ってはうれしくない首長の実現となった。

第十五回総会（五月十二日）では池田自治会長が来賓としてあいさつされ、反対看板設置や風船揚げで運動の先頭に立たれたころの回想を述べられると同時に、ルート撤回、運動の推進、全員協力を力強く述べられた。席上、会費を月額二百五十円（従来は五百円）にすること、会の十年誌を刊行することなどが決まった。

市計画局への陳情、市秘書室長との会談（西尾市長は会

代表と会わないと拒否) 植田山地区へのPR版配布、看板修理などが行われた。公社が建設計画の見直し(2号線北部の高架案など)を発表し注目された。前年末、鏡ヶ池線の一部が事業認可され、新年早々、着工準備へ。

昭和60年度の主な活動記録

60・1月 自治会三役と会幹部懇談。

2月 アンケート実施で運動推進を確認。

5月 第十五回総会。池田自治会長来賓出席。

6月 市計画局へ陳情。

10月 市秘書室長と会談。

11月 植田山地区へPR版配布。

会の歩みをまとめて

会が発足した昭和五十年、名古屋都市高速道路は、緑区の大高方面と北区の新川中橋方面に橋脚らしいものを見せかけていた(工事ストップ中)だけだった。それが、昭和六十年の現在は、大高から円上を経て東新町までの2号線が開通、その北部への延長をめぐって市と建設省の秘密メモや東区内での高架案浮上などで大騒動を展開中である。1号線も中川区千音寺の東名阪ICから中村、中区へと着々

と工事が進み、やがては吹上ホール前付近までの作業が完成する状況にある。1号、2号両線がローマ字のT字型に形を整えて、あと五、六年? でひとまず結ばれることになるわけだ。

だが、踏みにじられる住民の悲しみ、破壊される環境、最も恐ろしい公害による生命・健康の不安、財源を永久に負担する市民の労苦などは、高速道路による、ある種の繁栄・活性化とは逆にますます増大する。会が常々主張してきたように、高速道路に高料金を払って車を走らす市民の数は知れていて一般道路の渋滞解消とはならない。

ルートが変更案となって藤巻町へ振られた真の理由はなにか―を考え、私達は主張すべきは主張し、決して安易な妥協に走ってはならないと考える。

最後になったが、これまでに会が出した陳情書、要望書の総数は三十通余、会報は臨時・号外・お知らせ・PR版を含めると百三十号余、看板の製作・塗り替え三十本余、その他、県内外調査、地区内調査、会合参加、会議、折衝などは数知れずというくらい多く、財務部による会費集金・管理もまた整然と行われてきた。全く、大変なエネルギーの発揮であった。

(文責・鈴木)